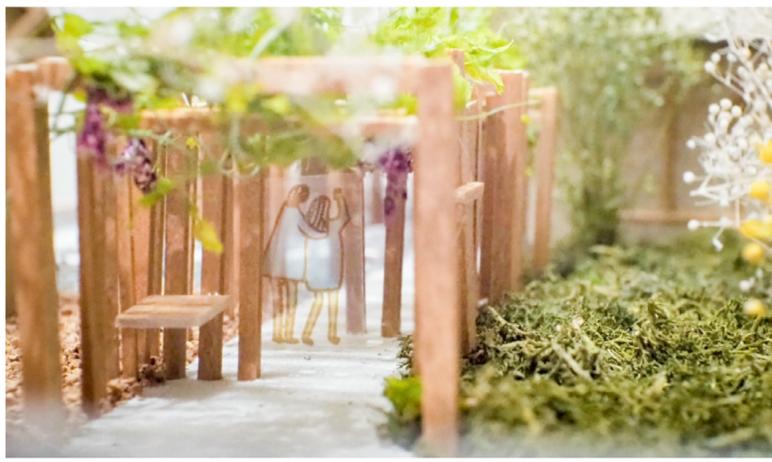


人をつなぐ路 ー高田における路地空間の再編ー

作品名	人をつなぐ路 ー高田における路地空間の再編ー	作品番号	1/5
校名	金沢工業大学		
氏名	小島 英恵		

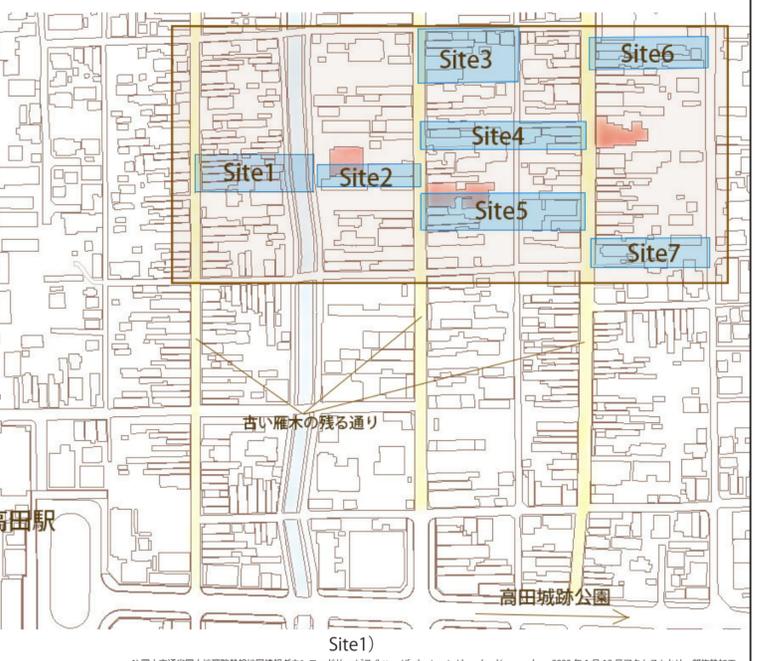


01 プロジェクトの背景と目的

まちに溢れる小さな風景や変化、つながりに気づくことは、私たちの暮らしに豊かさを与える。高田の人たちにとって雁木は、暮らしに豊かさを与える場であった。しかし、空き家の増加や高齢化に伴い、雁木下で見られた風景は減少し、コミュニティは日々薄まりつつある。そこで、路地と雁木をまちに巡らせること、雁木を新たな形で活用することで、まちと雁木の新しい関係をつくることにより、かつての役割を取り戻すことを目的とする。

02 敷地

新潟県上越市高田地区を計画敷地とする。この地域は、豪雪から通り道を確保するために母屋から歩道に軒や庇をかける雁木という建造物が残り、今も地域の交流の場となっている。雁木沿いには歴史的建築物が多く並ぶ。また敷地の周辺には、日本有数の寺町や高田城址公園などがあり、観光客が多く訪れている。



03 プロジェクトの概要

①雁木と路地

初めて雁木の道を歩いたときに、路地の魅力と似た魅力を感じた。雁木の道に、人々の生活や趣味、個性が垣間見れていたからである。路地に明確な定義はないが、本計画では雁木の通りも路地と捉え、路地の魅力を取り入れる。

②路地の魅力

路地の魅力とは何だろうか。どこかの家のご飯の香り、下校する小学生が溝蓋の上を歩く音、塀の上を歩いてどこかへ行く猫の姿。私は今まで、このようなまちに溢れる要素を五感で楽しみ、それぞれの暮らしや目線に想像を広げることでまち歩きを楽しんでいた。この経験から、通ることで動作や想像、感情、コミュニティが生まれることが路地の魅力であると考えられる。

魅力的に感じた路地を参考に、その魅力を生む要素を以下に挙げる。

- ・住む人の生活が垣間見れること
- ・先が見えないこと
- ・通行人が関わっていること
- ・高低差があること
- ・住む人によって作り出されていること
- ・非日常的であること
- ・気象要素の変化があること
- ・五感で楽しめること
- ・環境や視界が変化に富むこと
- ・きっかけを誘引すること

③新たな雁木の提案

まちに住まう一人一人が、路地の形成に携わることを目指し、雁木の提案を行う。新たな雁木を設える際や、設えた後に、今までは気づかなかった風景やつながりを見つけられることを前提とし、サーベをもとに敷地ごとの特徴を考慮しながら提案する。7つの敷地に対し、13個の雁木の提案、6棟の新築、7棟のリノベーションを含む提案を行う。

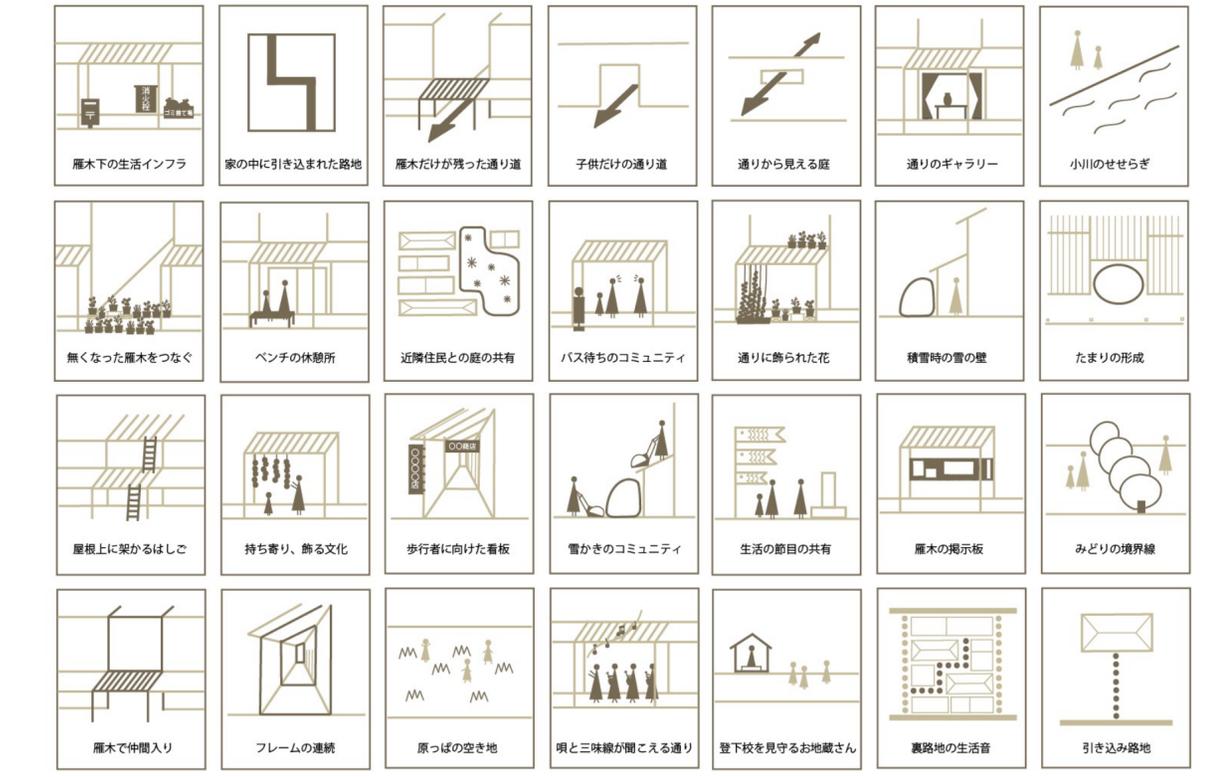
04 設計手法

- ①敷地周辺の風景から、路地の傾向を挙げる。
- ②敷地から抽出した要素を言語化し、設計の手引きとする。

①敷地周辺の路地の傾向



②敷地から抽出した設計の手引き



1) 国土交通省国土地理院基礎地図情報ダウンロードサービス (https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php, 2022年1月12日アクセス) より一部抜粋加工

05 雁木の定義

従来の雁木の定義は「歩道に庇や軒が架かっており、町家に付随しているもの」である。しかし、敷地調査から、町家を取り壊され雁木だけが残る所などが増え、雁木の定義は成り立たなくなっていることが分かった。

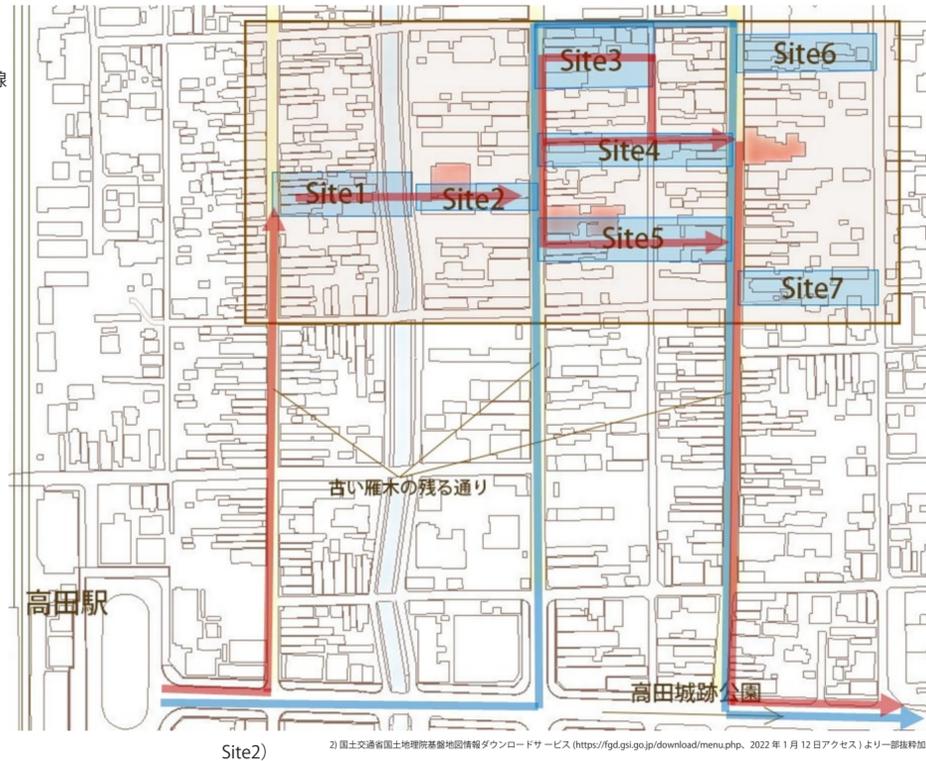


本プロジェクトにおける雁木の定義

- ① 住民の個性や生活がにじみ出ていること
- ② 住む人によって作り出されていること

06 動線計画

■ … 計画による観光客の動線
■ … 現在の観光客の動線



地域の人の動線は、それぞれの敷地の平面図に示す。観光客の動線は上の地図通りである。現在、2本の雁木通りだけを通る観光客が多いため、もう一本の通りと、より生活の気配が感じられる裏路地の両方を通るように動線を計画した。

07 配置図



儀明川



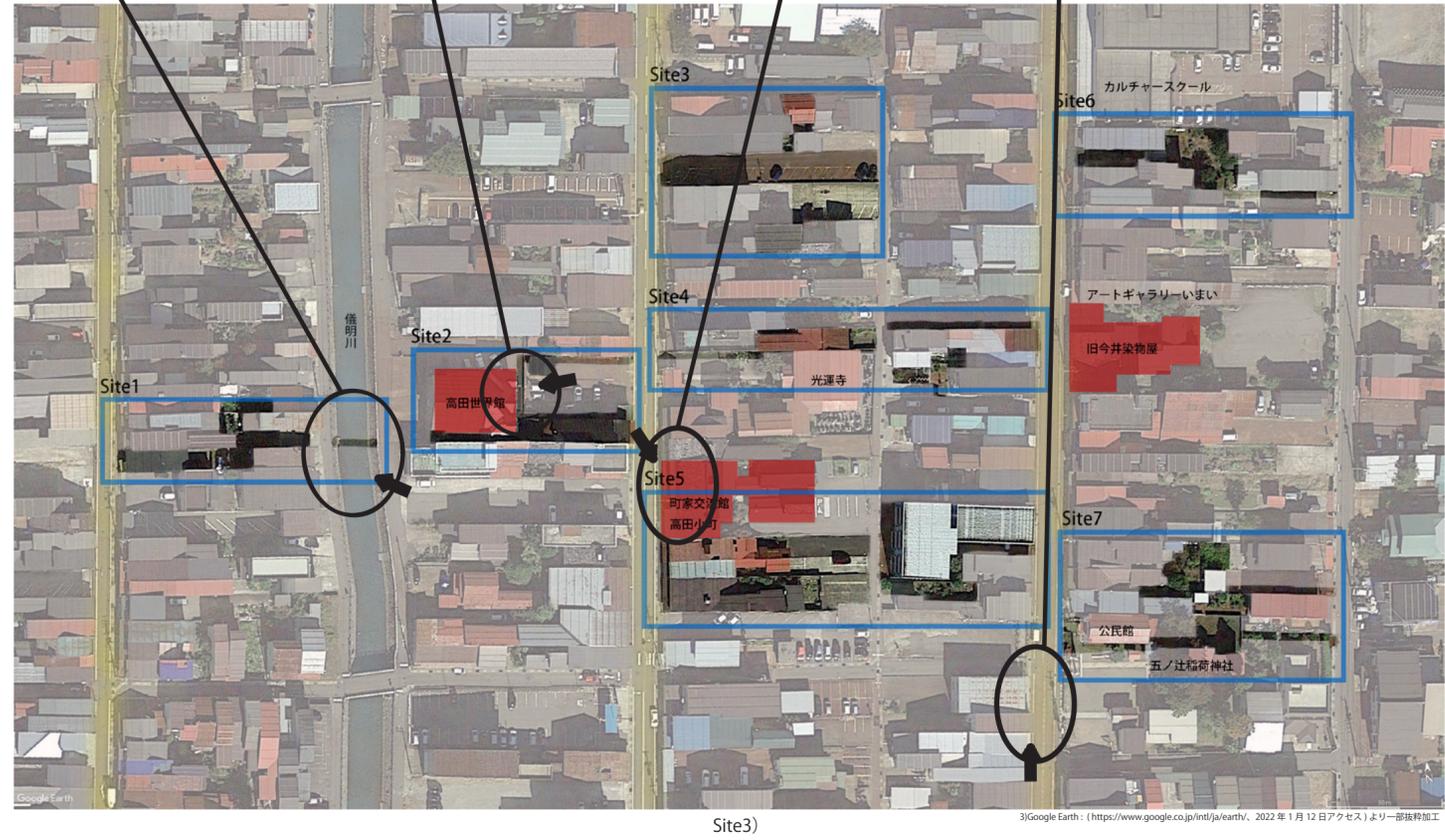
高田世界館 (映画館)



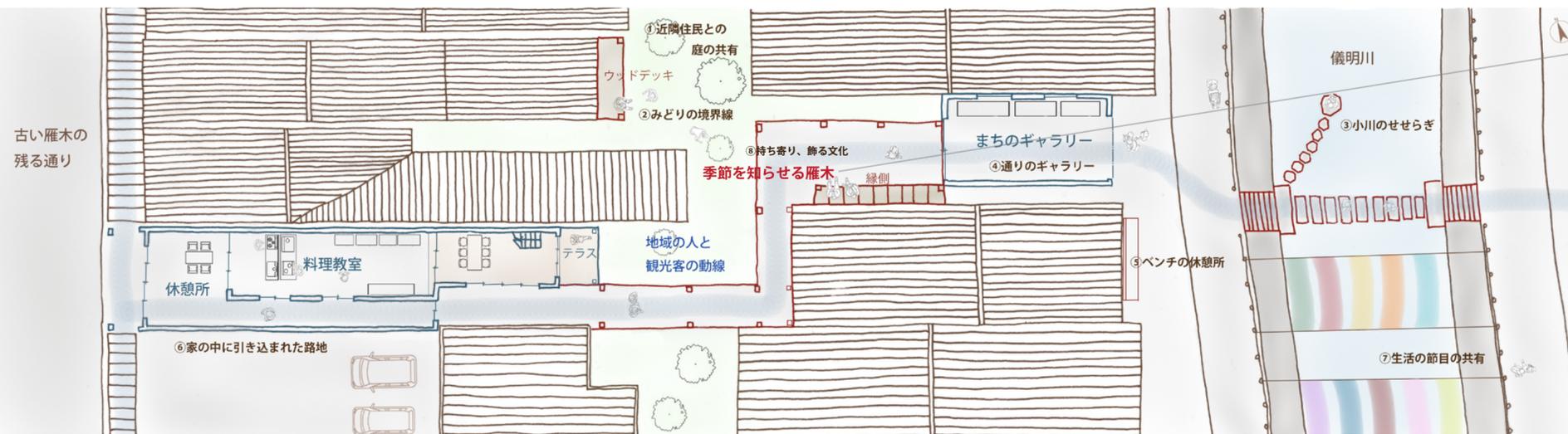
町家交流館 高田小町



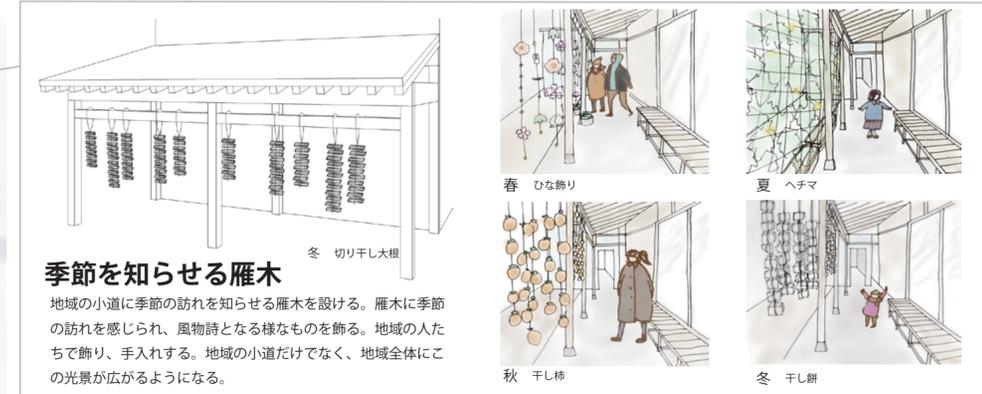
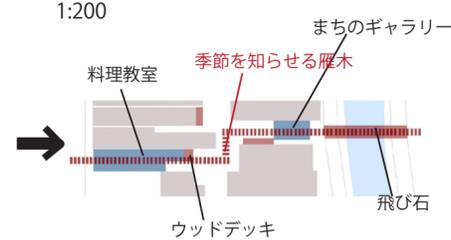
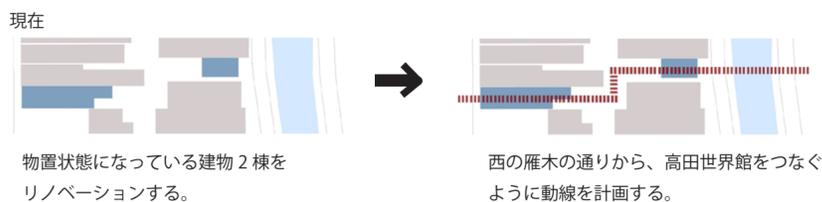
古い雁木の残る通り



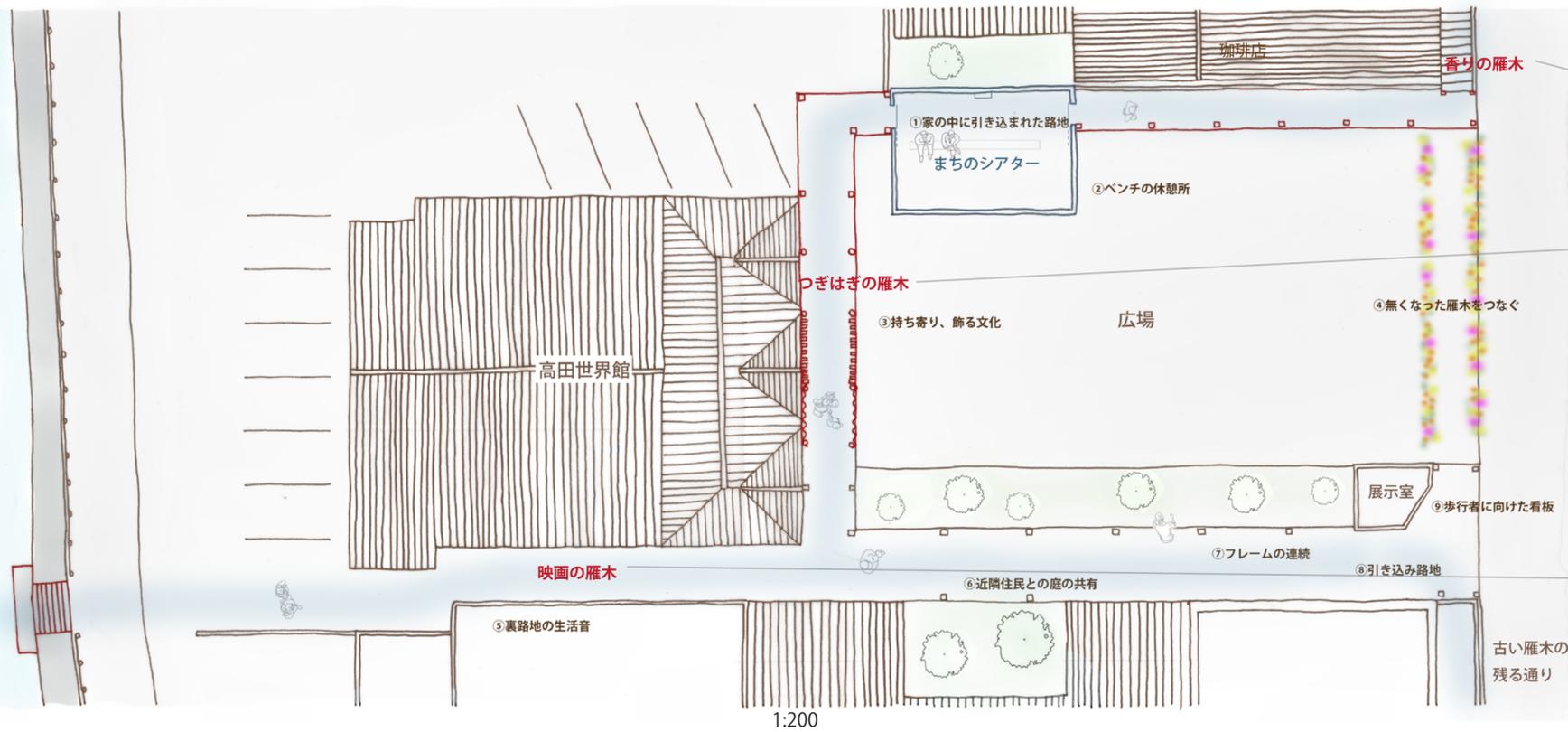
08 Site1 地域の小道



設計ダイアグラム ■ … 新築、新設 ■ … リノベーション

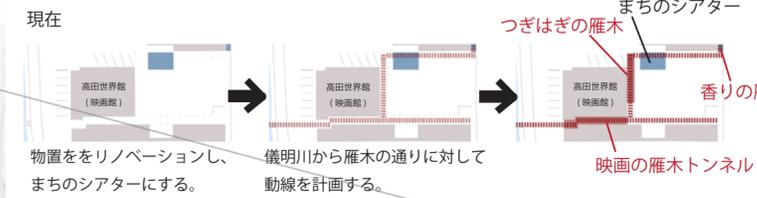


09 Site2 映画の小道



設計ダイアグラム

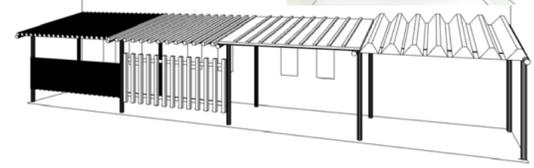
■ ... 新築、新設 ■ ... リノベーション



作品名	人をつなぐ路 —高田における路地空間の再編—	作品番号	3/5
校名	金沢工業大学		
氏名	小島 英恵		

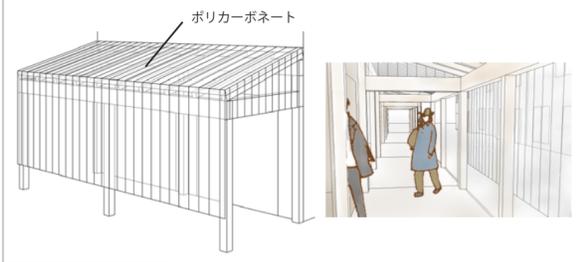
つぎはぎの雁木

高田世界館は1911年に建設以降、改修や修繕を繰り返しながら映画館としての機能を保ってきた。つぎはぎの外壁を雁木にも取り入れ、近隣住民が維持することによって、地域コミュニティの形成と、映画館がより地域に近いものになる。



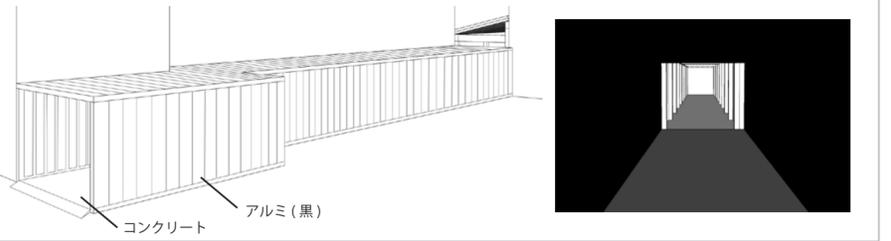
香りの雁木

映画の通りの珈琲店前に香りの雁木を設ける。珈琲の香りが雁木内に漂うように、間口側の雁木の柱にポリカーボネートを付ける。雁木内に漂う香りに気づきかけとなる。

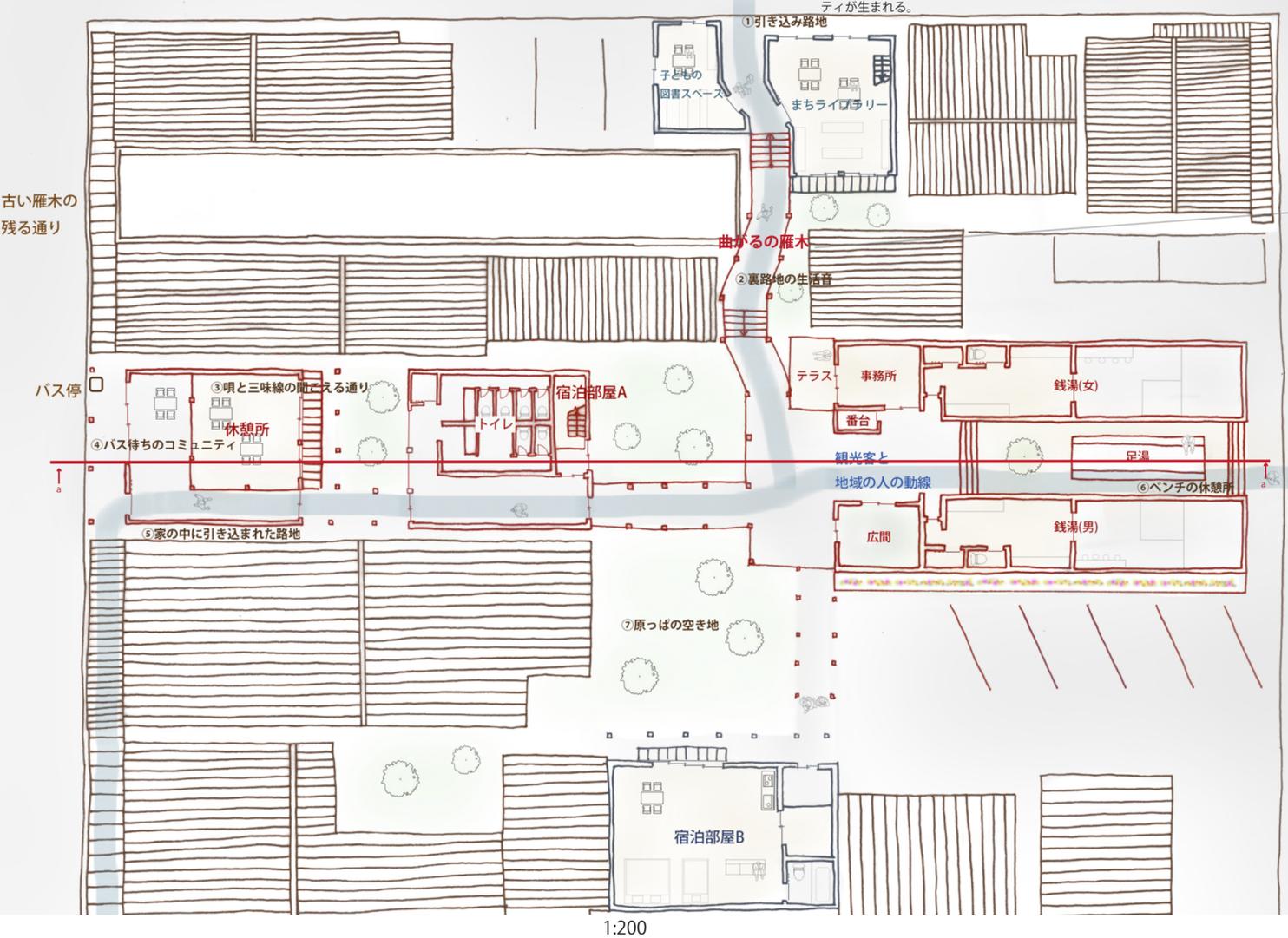


映画の雁木トンネル

映画館の隣の通りに、映画の雁木トンネルを設ける。映画館から漏れる音を聞きながら、真っ暗なトンネルを進むと、出口の先にある雁木の景色が、映画館のスクリーンのように切り取られた風景となる。

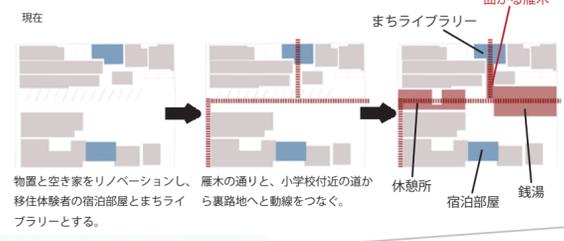


10 Site3 足湯の小道



設計ダイアグラム

■ ... 新築、新設 ■ ... リノベーション



曲がるの雁木

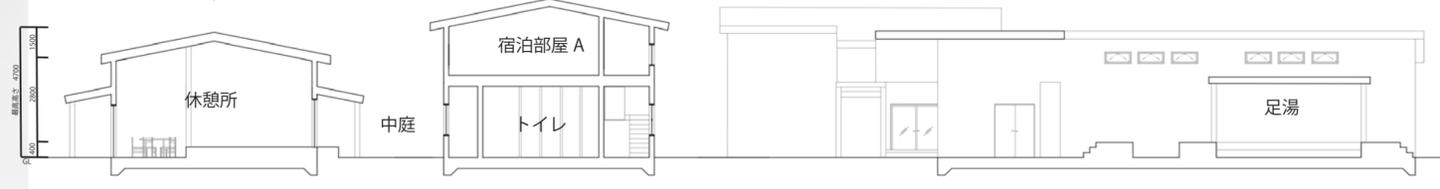
小学生の多い通りに、曲がる雁木を設ける。路地の魅力である、①高低差、②トンネル路地、③囲まれた環境、④先が見えないこと、⑤ぎっ掛けを誘引すること 以上の5つの要素を取り入れた。高低差を利用し、視界を路地周辺の植物まで下げること、季節の変化や自然に着目するきっかけを生む。



休憩所
バス停の前に休憩所を設ける。敷地から抽出した要素であるバス待ちのコミュニティを取り入れた。

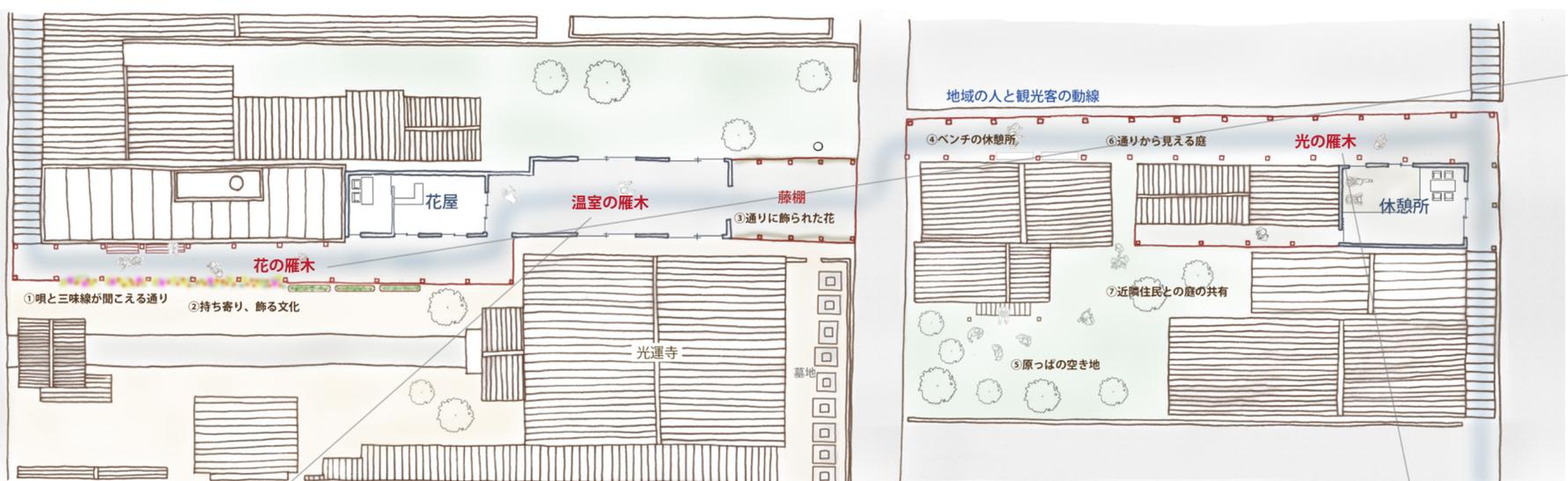


足湯
雁木の道に足湯を配置する。移住体験者や観光客と地元の人が交流する場となる。



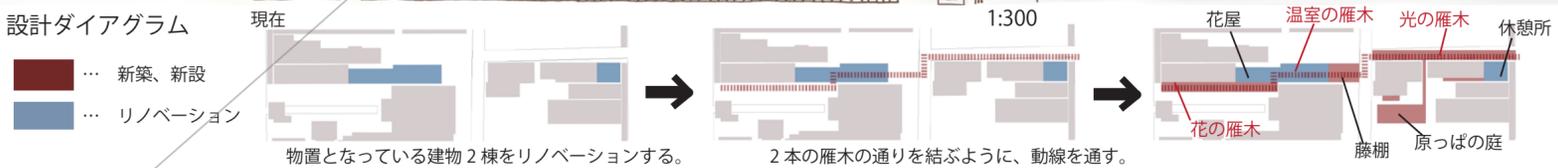
11 Site4 花の小道

作品名	人をつなぐ路	作品番号	4/5
	—高田における路地空間の再編—		
校名	金沢工業大学		
氏名	小島 英恵		



花の雁木

住民が花を持ち寄り飾る。園芸の趣味を地域の人と共有する。持ち寄り飾ることで雁木の道に親しみが出るだけでなく、新たな観光名所としての役割も担う。積雪時は花を飾る板が、雪下ろしのはしごとして機能する。

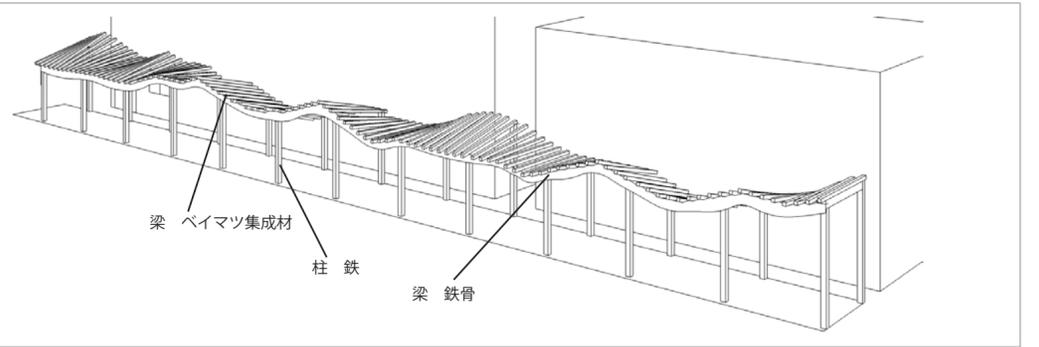


温室の雁木

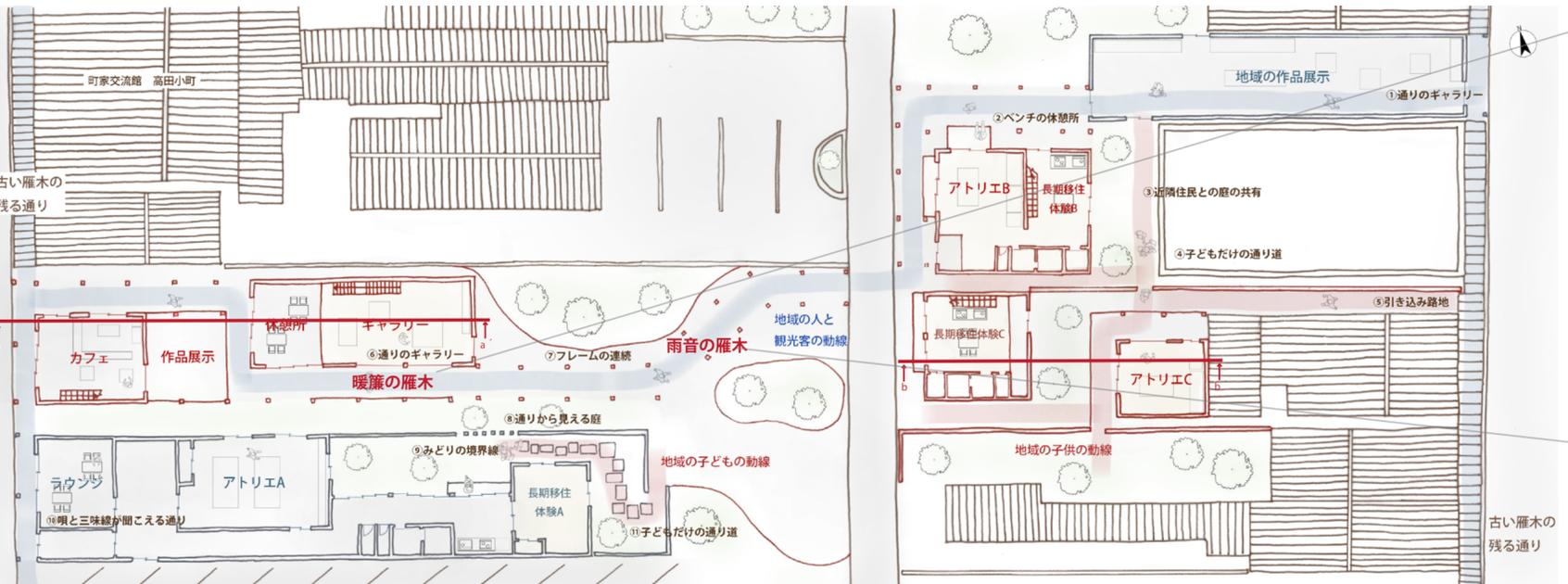
花の雁木の先に、温室の雁木を設ける。路地の魅力である、
 ①住む人によって作り出されていること、②非日常的であること、
 ③囲まれた環境、④きっかけを誘引すること、⑤気象要素(風、気温)の変化 以上の5つの要素を取り入れた。
 花屋に併設し、売り物の花を展示する。

光の雁木

花の雁木の先に、光の雁木を設ける。路地の魅力である、①非日常的であること、②きっかけを誘引することの2つの要素を取り入れた。
 北側の優しい日差しが、木の影を地面に映す。原っぱにつながる小道や、ベンチ、休憩所に動線を引き込むように屋根の勾配や高さを変化させる。



12 Site5 アートの小道



暖簾の雁木

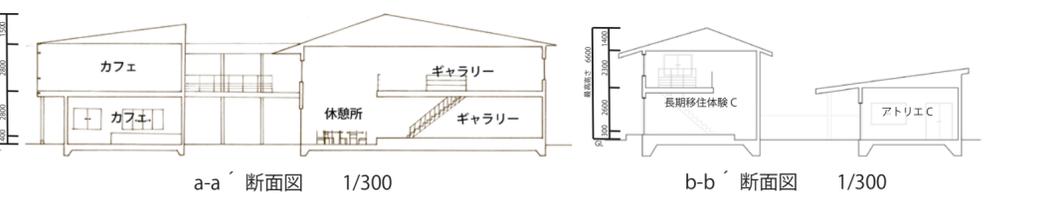
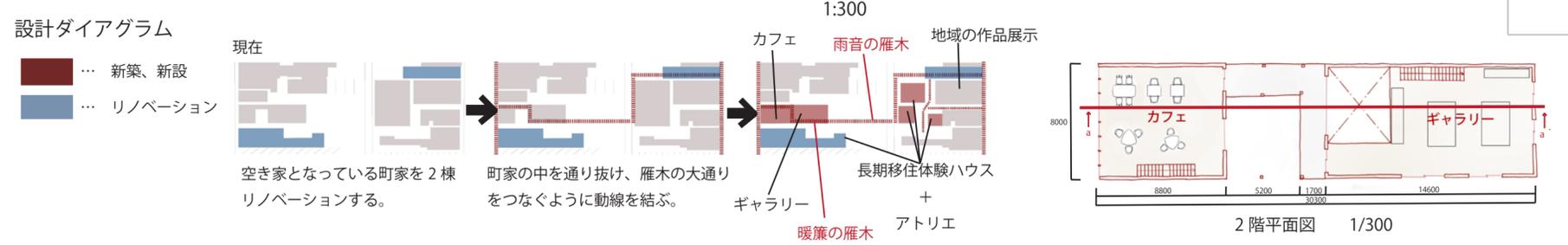
アートの通りに、暖簾の雁木を設ける。路地の魅力である、①先が見えないこと、②きっかけを誘引すること ③住む人によって作り出されていること、④非日常的であること 以上の4つの要素を取り入れた。
 暖簾は長期移住体験を行っている染織作家が制作したものを展示、活用する。

長期移住体験

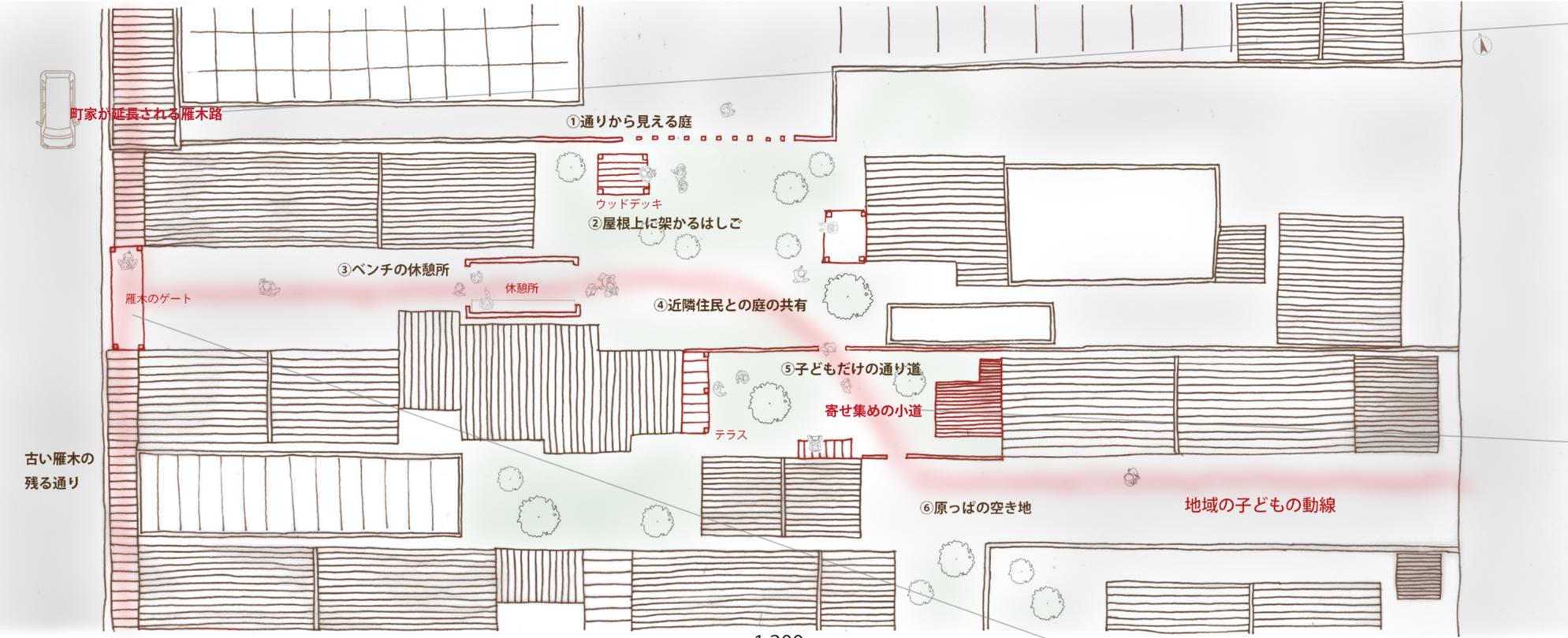
長期移住体験中の芸術家に、地域の人とのつながりをつくり、移住しやすい環境を作ってもらう為、子どもや近所さんの動線を敷地内に引き込む。

雨音の雁木

暖簾の雁木の先に、雨音の雁木を設ける。路地の魅力である、
 ①先が見えないこと、②きっかけを誘引することの2つの要素を取り入れた。
 トタンとポリカーボネートの屋根にすることで、雨音に注目しながら歩ききっかけを生む。

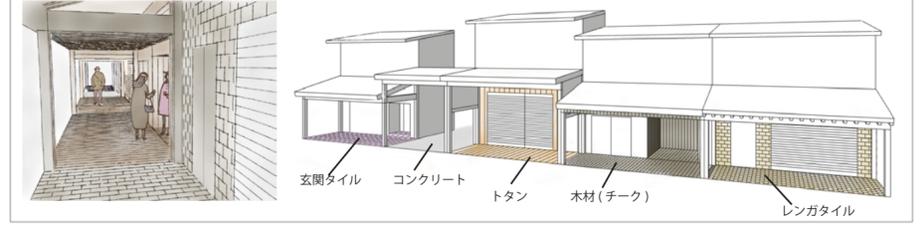


13 Site6 子どもの小道



町家が延長される雁木路

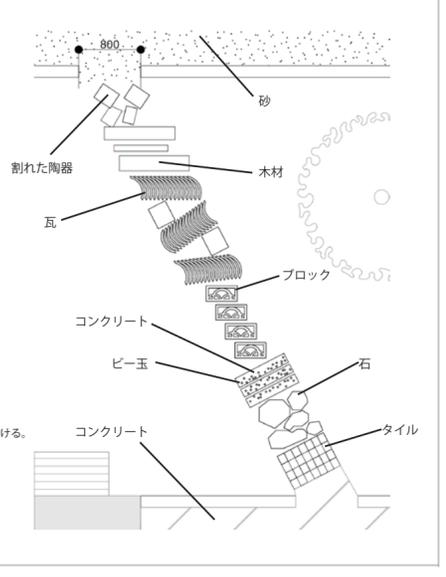
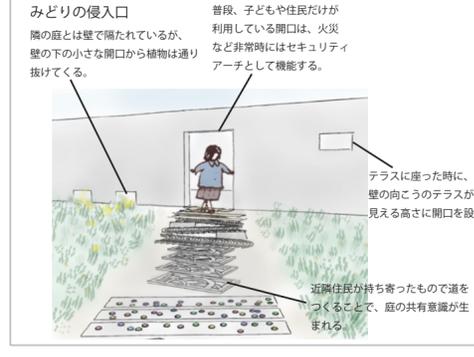
site6 周辺はミセ部分を利用していない家や、シャッターを閉じている住宅が多く、住民の生活感が感じられない。その住宅の床や壁の素材を雁木と同じにすることで、住宅前の雁木空間が自分の空間であることを再認識し、雁木通りに住民の個性が溢れるきっかけとなる。また、雁木通りを通る人は風景や足裏の感触が変わる楽しみができる。



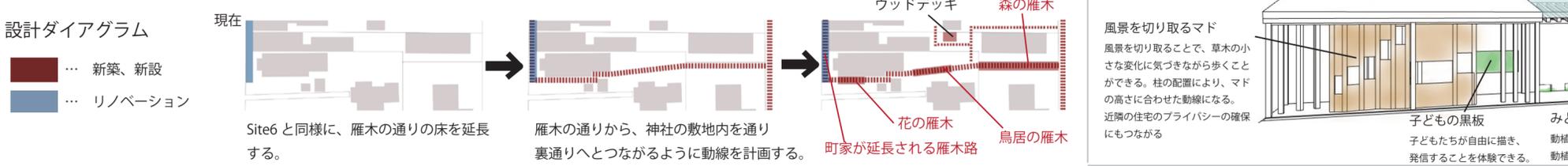
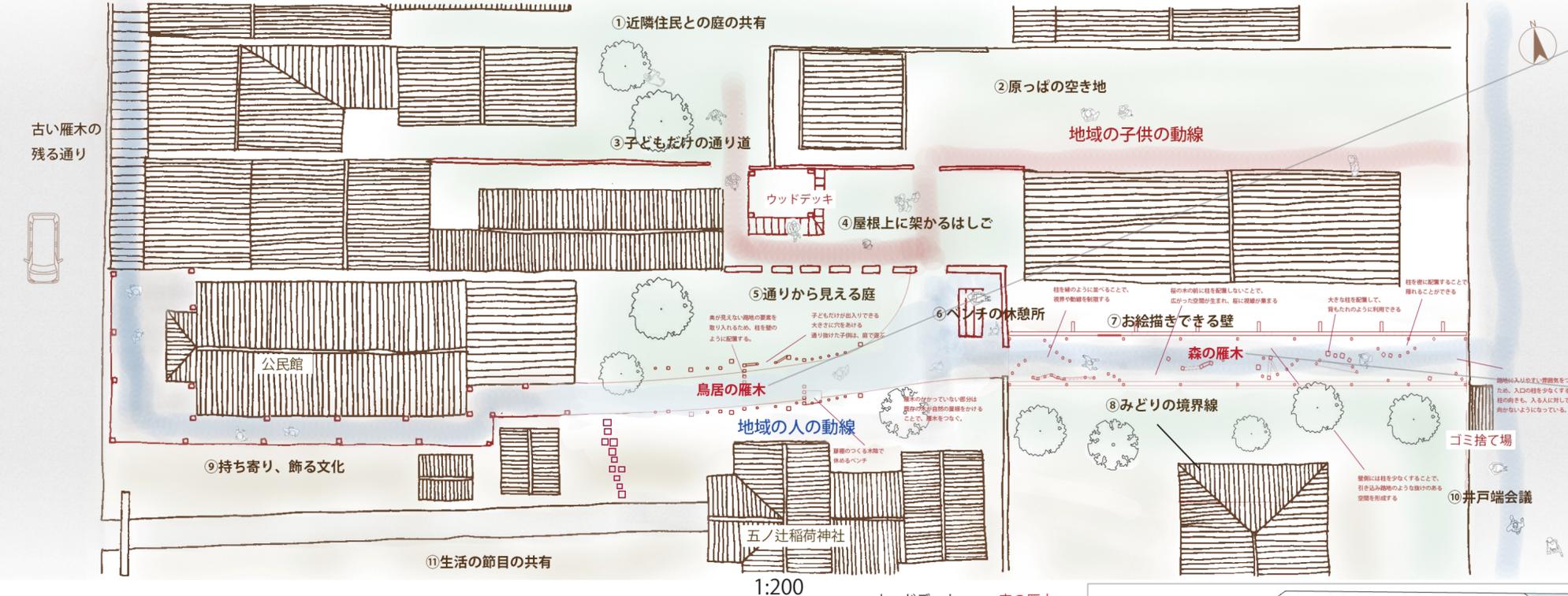
作品名	人をつなぐ路 一高田における路地空間の再編	作品番号	5/5
校名	金沢工業大学		
氏名	小島 英恵		

寄せ集めの小道

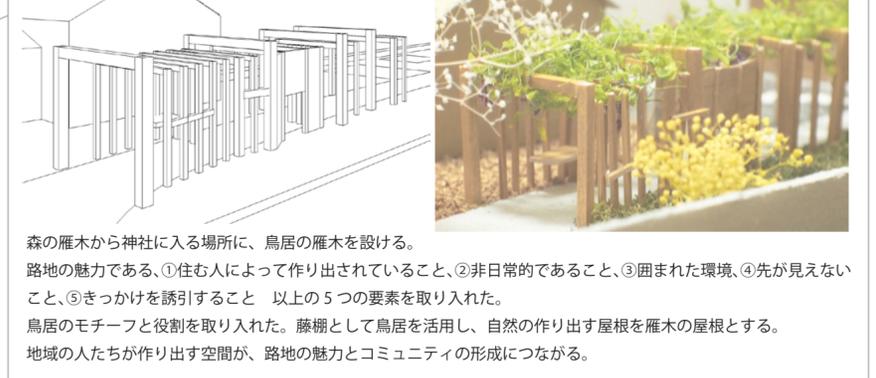
住民たちが集めたもので小道をつくることで、つくる作業も含めて住民同士のコミュニティの形成に繋がる。様々なものが混在し、変化に富む裏路地らしい風景の形成と、裏路地コミュニティの形成を目的とする。設えられた小道は、視覚的に住民による許容を感じさせ通りやすくなる。



14 Site7 神社の小道



鳥居の雁木



森の雁木



森の木のように、柱を避けながら進む。子どもはかくれんぼなどをして遊び、大人は森の中に居心地の良い空間を見つける。